

# 実技教育支援コーディネーターの養成と 配置効果の科学的検証 — 図画工作・音楽・書写の「実践知」習得を 基盤とした「潜在的カリキュラム」の開発 —

最終更新日：2015年9月1日

【プロジェクト代表者】  
美術教育講座  
准教授  
松久 公嗣

## キーワード

・図画工作 ・専科教育 ・実践知 ・実技教育支援コーディネーター

## プロジェクトの内容（目的・方法・結果と意義）

図工・音楽・書写の実技的側面に苦手意識を持つ教員は多く、ネガティブ傾向の「潜在的カリキュラム」として児童の構造的苦手意識を形成する要因となっている。

本事業では、専科教育の調査や教材開発の検証による仮説を基に、独自に『実技教育支援コーディネーター』を養成し、研究拠点校への配置によって現職教員との間にOJT関係を築く。教育現場での実践と教育効果の科学的検証によって、教員研修の高度化と教員養成カリキュラムの改善ならびに実現性・汎用性の高い教育システムの確立が可能となる。

事業を進めるにあたっては、本学の特色である初等教育教員養成課程「選修制度」を発展させた教科（講座）横断型の研究体制を組織することで、教育現場を重視した多角的な実践的研究を進め、科学的根拠に基づいた教育効果の解明を目指す。研究の成果は、大学主催のシンポジウムを通して連携体制にある宗像市・福津市の教育委員会および各学校現場に発信するとともに、「情操」教育に関わる「感性」の教育モデルとして教育の現場に還元し、広く教育界に貢献することを目的とするものである。

研究拠点校における100%の教諭から、本事業における実技教育支援コーディネーターとのチームティーチングは効果があったと回答を得た。また、児童の意識や能力の向上についてPTAからも高く評価された。事業の拡大は予算的な問題から断念せざるを得なかったが、「学力向上支援員」という形態で、一部の研究拠点校において実技教育支援コーディネーターの雇用に近い体制を維持できている。

## 成果の応用可能性（私たちの活動の成果は、このような分野にこのように貢献することができます。）

学力テスト等が存在しない実技を伴う教育領域では、その教育効果や重要性の検証は極めて難しい。この課題を脳科学的に解き明かすとともに、教師の持つ「潜在的カリキュラム」およびそれにとまなう教育方法の変化が、児童の脳活動へ及ぼす影響を明らかにすることができれば、初等教員の養成において苦手科目を克服すべき様々な対策を考案・実施し、さらにその成果を科学的に評価することが可能となる。これは学士力の向上につながるものであり、教師の資質の違いによる教育格差を小さくすることが望めるなど、教育分野では資するところが非常に大きい。

また、各教育委員会では学校に対して教育支援人員の配置をおこなっているが、「学力向上」や「英語活動」への関心が強く、実技の教育支援は地域のボランティア人材に頼るところが大きい。「生きる力」に繋がる学力として、実技的側面と知識的側面の連動は有効であるという実践結果もあり、教育の質を保証し、現職教員の自律的研修を促す上でも意義深い事業といえる。

## このプロジェクトの形成に寄与した制度等

平成23-25年度  
文部科学省概算要求プロジェクト(特別経費)

## プロジェクト構成員（所属・職名・氏名・役割分担）

松久公嗣 研究代表  
木村次宏, 和田圭壮, 梅野貴俊 各教科, 各事業代表  
他 美術教育講座教員(美術・書), 音楽教育講座教員,  
技術教育講座教員